

2023年度 東洋大学 IR ニュースレター Vol.1 (通算第10号)

日本人学生・留学生の満足度と大学教育への評価



東洋大学
学長・IR室長 矢口悦子

2022年度の卒業時アンケートの結果をみますと、うれしいことに、大学や学部・学科への満足度が高まっていることが読み取れます。コロナ禍により、十分な教育経験やキャンパスライフを満喫できなかったことで、満足度が下がるのではないかと心配していましたので、多くの学生が納得できる学生生活を経て巣立ったと知るとは大きな喜びです。グループワークや、発表する機会が増えているということや、提出物に先生からのコメントが付されて返却されたという回答の増加などが、満足感へ影響を与えていたかもしれません。ここはさらなる分析が必要です。また、留学生の満足度の高さが傑出していることもご紹介しました。教職員が一丸となって教育の充実に努め、学びの環境整備をすることが、学生たちに実感され、評価されていると知り、身の引き締まる思いです。卒業生たちには、厳しい社会の中でも柔軟に楽しく生活して欲しい、と願いながら、このレターをお届けします。

「2022年度卒業時アンケート」調査概要

調査期間：2023年3月23日～31日 実施対象：2022年度卒業生6,590名 回答状況：2,154名(回答率37.7%)

年度別回答者数/回答率

| | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 卒業生数 | 6,622 | 6,914 | 6,963 | 6,847 | 6,590 |
| 回答者数 | 6,127 | 699 | 1,365 | 1,415 | 2,154 |
| 回答率(%) | 92.5 | 10.1 | 19.6 | 20.7 | 32.7 |

※2018年度まではマークシート、2019年度以降はWebアンケートで実施

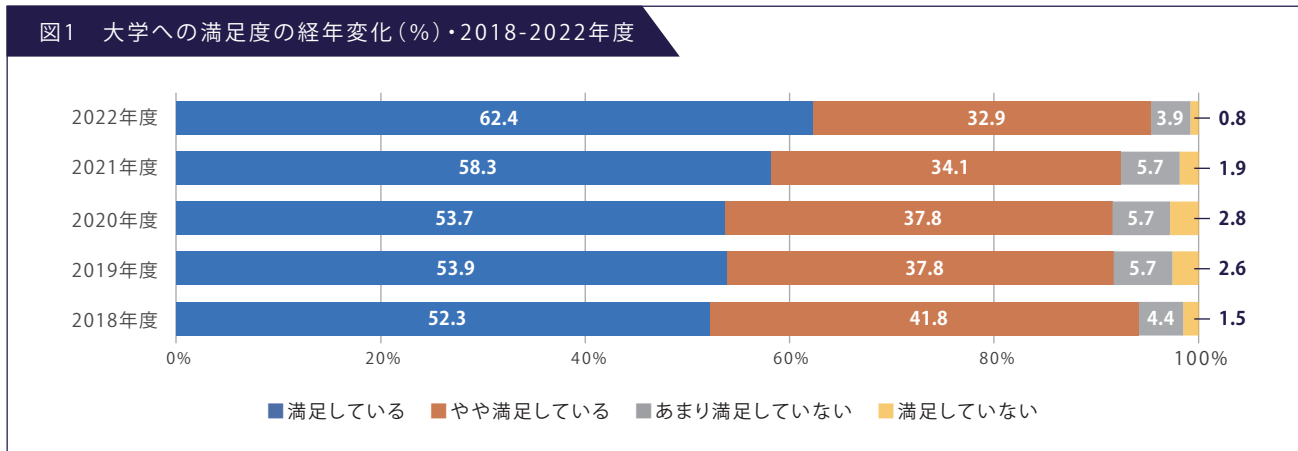
分析担当：IR室 教授 劉文君

分析の目的：2022年度の卒業生は大学生活の大半をコロナ禍の中で過ごした。これが卒業生の満足度にどのような影響を与えたか、また、「経験した授業形態」にどのような変化があったかを明らかにする。さらに、大学への満足度、大学の授業形態、学修支援の状況について、日本人と外国人留学生の異同を分析し、大学への満足度の規定要因について分析する。

1. 卒業生の満足度

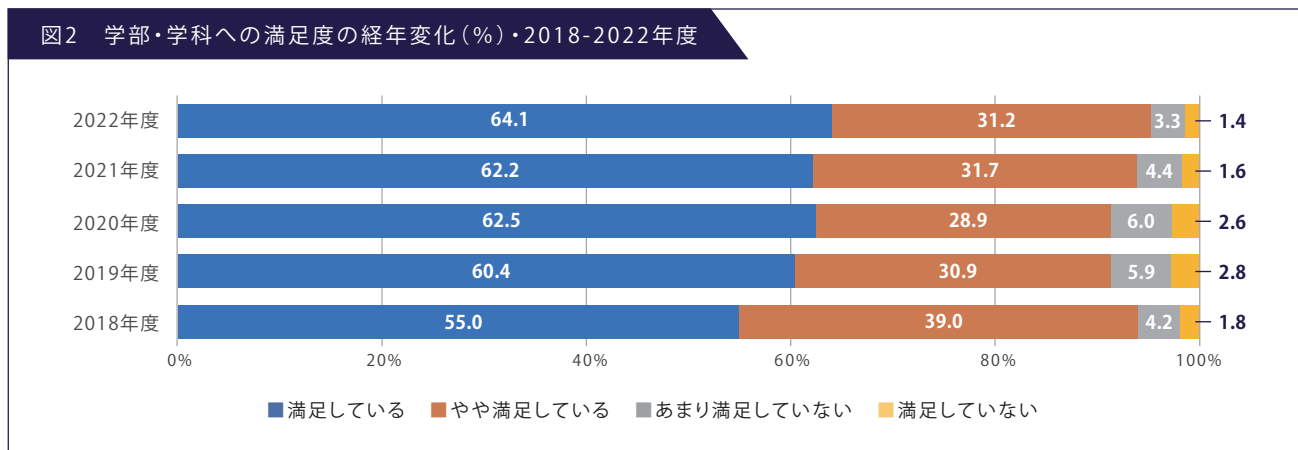
① 大学への満足度

「満足している」(62.4%)の割合は昨年より高く、「やや満足している」(32.9%)と合わせて95.3%。この二年間、満足度が上昇している。



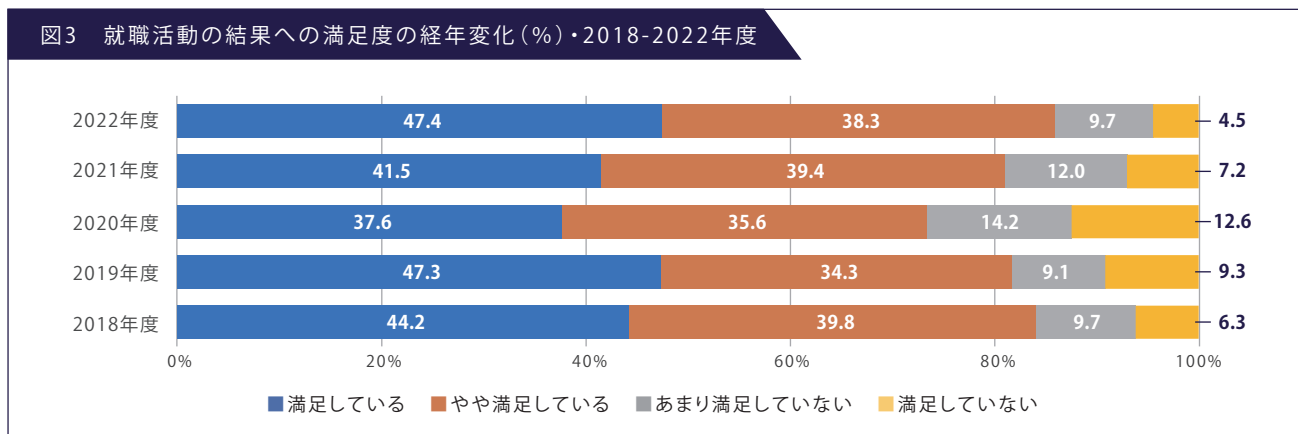
② 学部・学科への満足度

「満足している」(64.1%)と「やや満足している」(31.2%)を合わせて95.3%。昨年より高い。



③ 就職活動の結果への満足度

「満足している」(47.4%)と「やや満足している」(38.3%)を合わせて85.7%。昨年度の80.9%より約5ポイント高く、コロナ禍での落ち込みから回復している。



2. 経験した授業形態・増やしてほしい授業形態

「適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却される」「授業中に自分の意見や考え方を述べる」などの授業、および「TAなどによる補助的な指導」「主に英語で行われる授業」の授業を経験した(「よくあった」+「ある程度あった」)割合が、大きく増加した。

図4 経験した授業形態の経年変化(%)・2018-2022年度

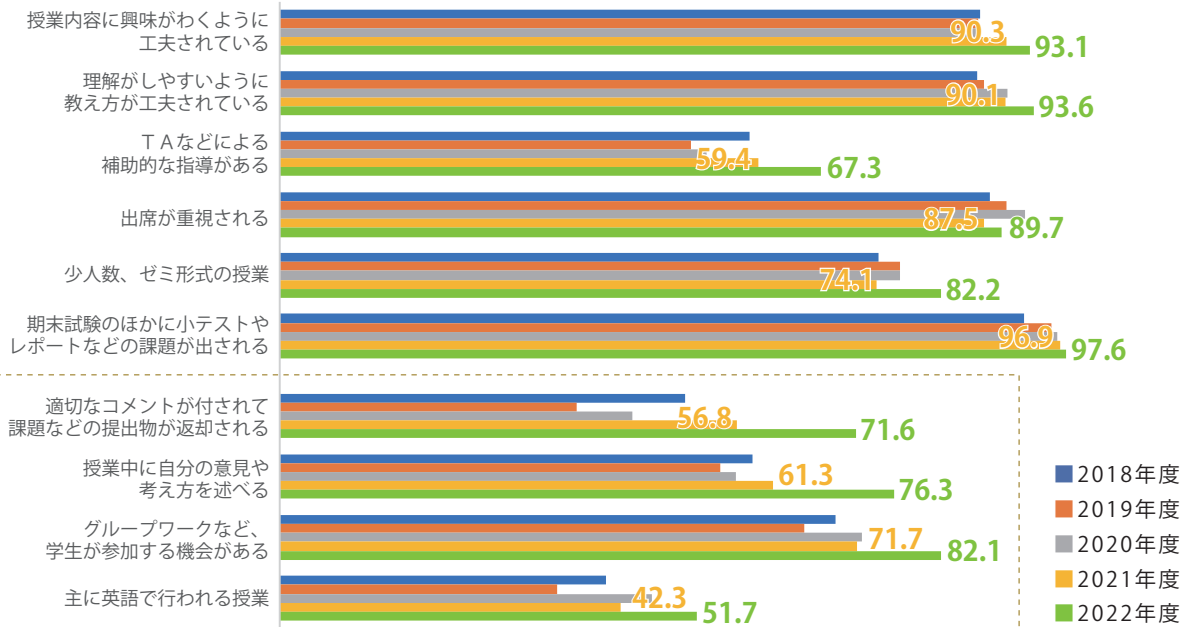
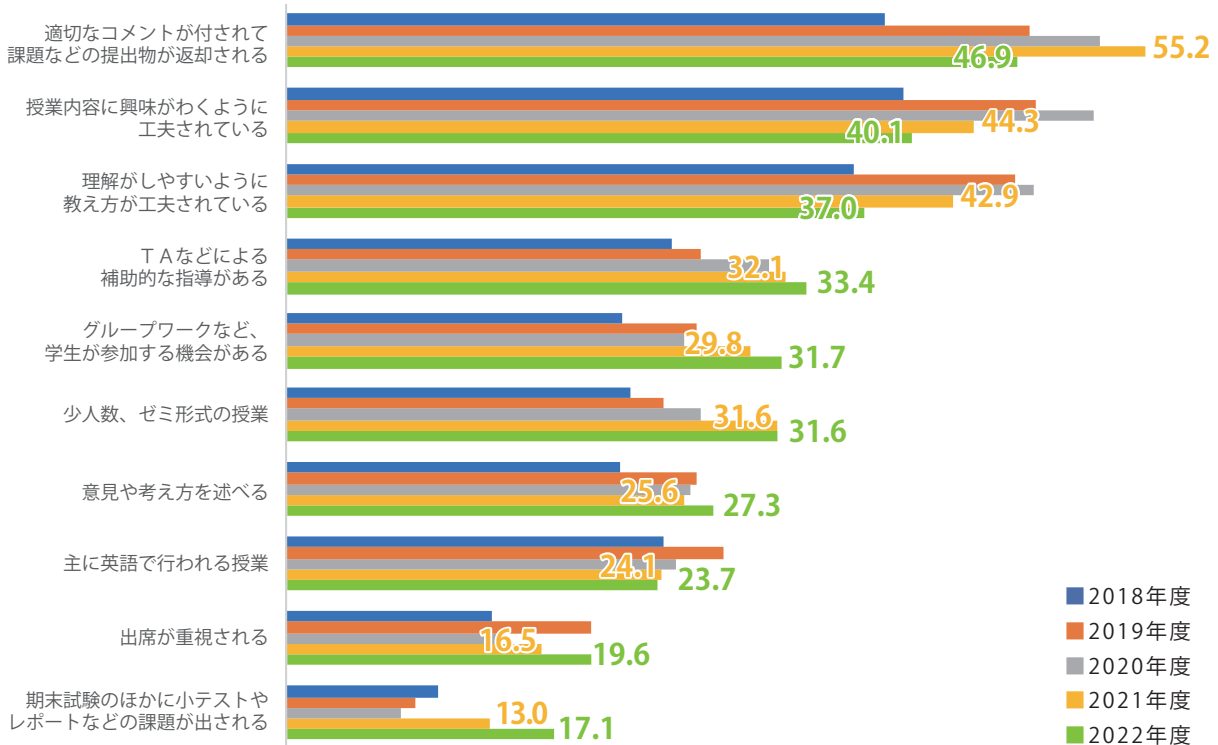


図5 増やしてほしい授業形態の経年変化(%)・2018-2022年度(2022年度の高い順)



一方で「増やしてほしい」授業形態については、回答の割合を高い順に「適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却される」(46.9%)「授業内容に興味わくように工夫されている」(40.1%)「理解がしやすいように教え方が工夫されている」(37.0%)などとなっており、これらの授業形態については、現状よりもまだ「増やしてほしい」という声強い。

3.日本人学生と留学生の比較

調査回答者は日本人学生2,045名、留学生109名である。図6から分かるように、「大学」「学部・学科」への満足度については、日本人学生より留学生の満足度が高い。「就職活動の結果」では日本人学生の満足度の方が高い。

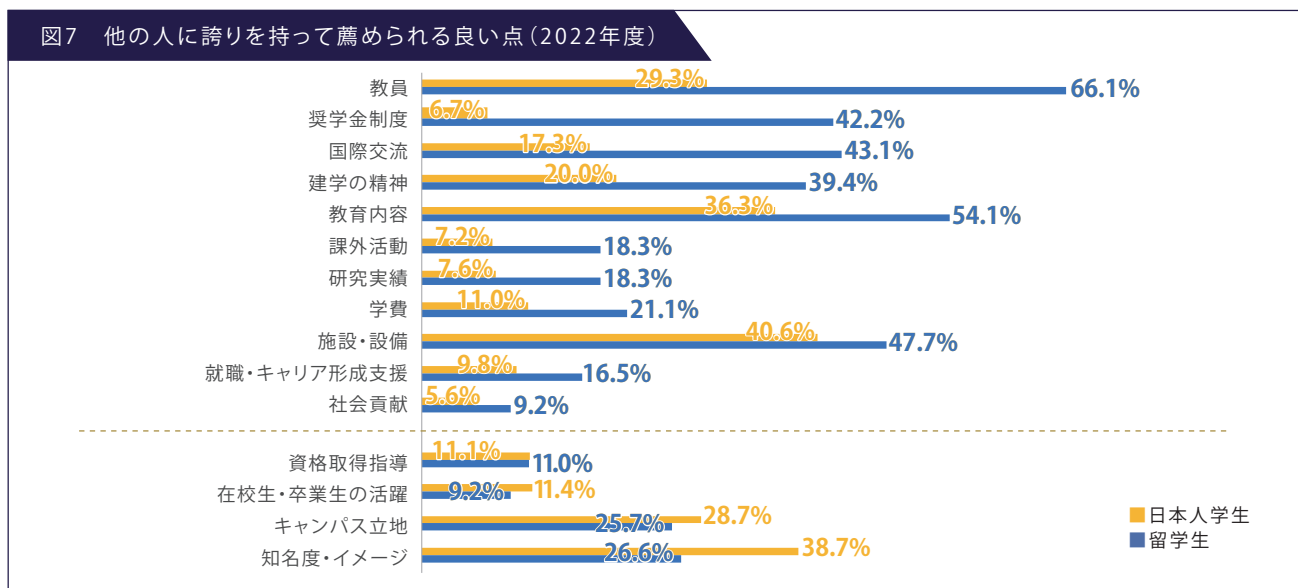
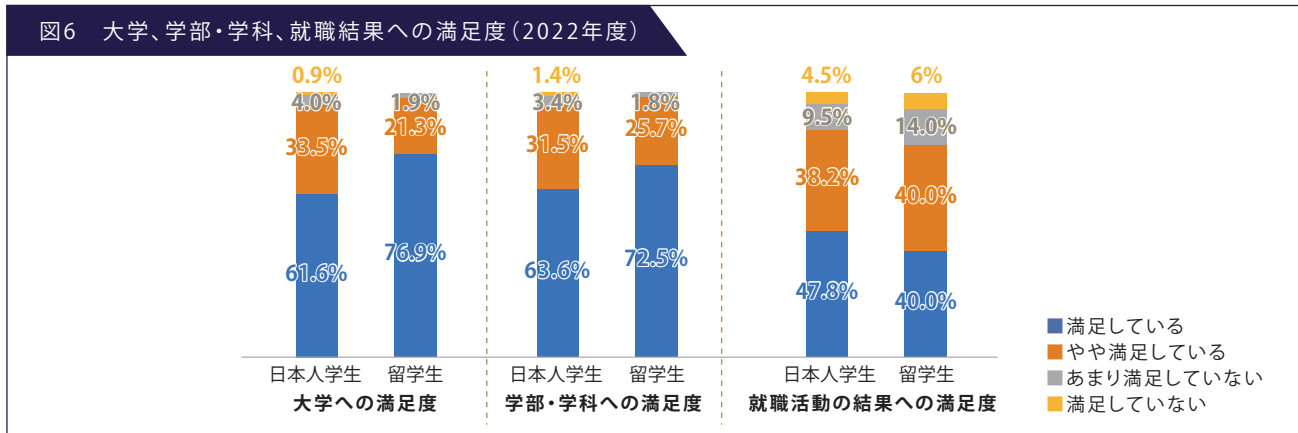


図7に示すように、留学生の方がより高い項目が多く、特に「教員」「奨学金制度」「国際交流」「建学の精神」「教育内容」などで差が大きい。「知名度・イメージ」の項目では日本人学生の方がより高い。また、「増やしてほしい授業形態」については、多くの項目で留学生の方が要求が強く、特に「英語で行われる授業」「TAなどによる補助的な指導」「少人数、ゼミ形式」「意見や考え方を述べる」の項目で日本人学生との差が大きい。さらに、「授業以外の学習の支援」についても、留学生の方が多くの項目で割合が高く、「留学学習相談」「大学院への進学指導」「レポート、論文書き方相談」「文献、資料調べ方相談」「語学教育支援」での差が大きい（図表省略）。

4.「大学への満足度」と他の満足度・自己評価の間の相関

日本人学生と留学生の「大学への満足度」と「学部・学科への満足度」はそれぞれ高い相関が見られる。「就職活動の結果への満足度」については、日本人学生では有意な相関が見られるが、留学生では見られない。「身に付けた能力（自己評価）」では日本人学生と留学生でいずれも有意な相関が見られるが、日本人学生は留学生と比べ「②外国語によるコミュニケーション能力」以外の項目において相関が高い。

表1 「大学への満足度」と他の満足度・自己評価の間の相関

| | 日本人学生 | 留学生 |
|--------------------|--------|--------|
| 学部・学科への満足度 | .639** | .670** |
| 就職活動の結果への満足度 | .248** | 0.189 |
| 身に付けた能力（自己評価） | | |
| ①幅広い教養 | .371** | .300** |
| ②外国語によるコミュニケーション能力 | .237** | .320** |
| ③専門的知識・技能・態度 | .331** | .320** |
| ④主体的・自律的参加 | .358** | .225* |

**、相関係数は1%水準で有意（両側）です。*、相関係数は5%水準で有意（両側）です。

まとめ

卒業生の満足度は2021年度、2022年度と上昇してきており、コロナ禍からの回帰が良い影響を与えていることが示唆される。授業方法についても少しずつ改善されており、特に「適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却される」「授業中に自分の意見や考え方を述べる」などの経験に明確な増加が見られる。しかし、授業形態の改革に対する学生の要求は引き続き大きい。また、日本人と留学生との間には、多く項目で明確な差がある。対象別にどのような問題があるかを検討し、対処していくことが、全体での満足度上昇につながる。

※詳細な分析および学部別、第1部・第2部の単純集計、経年変化のデータはガールーン/ファイル管理/IR室関連で学内へ公表しています。適宜ご参照ください。